

令和3年度 地域活性化活動助成事業報告書

活 動 名	周南こどもゆめまつり[土鈴素焼きへの絵付け体験活動]
活 動 の 概 要	<p>「周南こどもゆめまつり」の中止</p> <p>「周南こどもゆめまつり」は昨年につき本年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため早々と5月の段階で中止が決まった。このイベントは、熊毛地区周辺の子供達の楽しみな行事としてすっかり定着しており、本支部も毎年干支の土鈴の絵付け体験のブースを担当し、協力団体として行事を盛り上げて来た。今年も中止となり昨年同様に熊毛地区内8つの幼・保育園に呼びかけて土鈴を提供し、年長の子供達（計133名）に色付けをお願いした。</p> <p>12月に入って土鈴を配布し絵付け作業を実施していただいた。会員もいくつかの園を訪問しひも付けなどを手伝いながら見学をさせていただいた。子供達は興味をもって思い思いの色を塗り時間を忘れて取り組んでいた。色塗りが完成した土鈴を大事そうにしている姿が印象的だった。各園には活動の様子の写真を依頼した。後日各園から丁寧なお礼の言葉と楽しそうに色塗りをしている写真が届いた。</p> <p>この活動は、子供達の創作意欲を醸成するとともに、今年は都合により他地域で購入したが、例年三丘地区の就労支援事業所「なべづる園」で製作販売されている素焼きの土鈴を毎年まとめて大量に購入して販売促進を図ることにより、障害者への理解を深め、地域活性化の一助としている。</p>
成 果	<p>この事業を通して次のような成果があったと考えている。</p> <p>① 2年続けてゆめまつりは中止となったが幼・保育園での土鈴の絵付け活動を通して各園や園児の保護者へも広くアピールすることができたと思われる。</p> <p>② 幼・保育園児にとって新しい年の干支の土鈴の素焼きに思い思いに絵付けすることにより日本の伝統文化にもふれ、創作意欲を喚起することで自分で作ったものに愛着をもつ貴重な体験をすることができた。</p>
今 後 の 課 題	<p>本支部がこの事業を継続する上では、次のような課題がある。</p> <p>① 今後も体験活動を仕組んでこの地域のこどもゆめまつりを盛り上げていく上で、子供達の創作意欲を引き出し、事業の主旨に沿った活動内容の充実に努めるとともに、本支部が地域での存在を得られるようにさら努力していきたい。</p> <p>② 今年は事業所の都合で購入できなかったが、熊毛地区にある唯一の障害者施設の就労支援事業所「なべづる園」の製品を購入することで当事業所の販売促進を図るとともに障害者に対する理解を深めている。価格は上がっているが土鈴の数はほぼこれまで通り減らさずに購入していきたい。</p> <p>③ 本支部は会員数が少なく、活動資金も少ないのが現状である。毎年新しい年の干支を楽しみにして参加者が増えてきているので、県からの助成金は頼みの綱である。来年度も要望に応えるべく実施していきたい。</p>

12月15日

大河内幼稚園

(13名・欠席2名)



12月17日

勝間保育園

(9名)

